

氏 名 : 佐藤 光緒

所 属 : 地域教育文化学部 異文化交流コース 1年

派遣期間: 2016年3月1日～3月14日(ベトナム国家農業大学)

◆日本語教室での指導内容

授業は、1日のうち午前9時～10時30分と午後3時～4時30分の計2回が行われました。生徒の人数が私達の人数と近いことが多かったので、生徒のレベルに合わせた個別指導の形式が多かったように思います。指導内容としては、『日本語これだけ』を使って平仮名の書き方や発音の仕方・数字を教えたり、『みんなの日本語』の内容をもとに会話の練習をしたりしました。前者の方では、ホワイトボードに平仮名を大きめにゆっくりと書いて見せることで、書き順を意識してもらえるように工夫しました。また、教えた平仮名を使って単語を作り、その単語の意味を英語で説明しました。(「あい」=love、「なつ」=summer など) 数字については、関連事項として曜日や月に関しても取り上げました。一方後者の方では、「今～している」のような日常会話でもよく使われる表現を中心に、生徒達の状況を当てはめて練習を行いました。(「私は今、日本語を勉強しています。」など)



◆日本語教室以外での交流活動

平日は、授業の合間に現地の学生が様々なベトナム料理のお店に連れて行ってくれました。ベトナム料理というと、私はフォーを思い浮かべるのですが、その他にも葉で巻いて食べるバイン・セオや生春巻きなど、美味しい料理がたくさんありました。

休日は、現地の学生達とホーチミン廟などの観光地に訪れました。写真でしか見たことのない場所がたくさんあり、実際に見るという貴重な体験ができました。また、皆でボーリングをしたりと楽しく充実した時間を過ごすことができました。

◆感想

私は今回初めての海外だったので、ベトナムに行く前日は正直不安な気持ちが大きかったように思います。そんな中、実際に行って最初に感じたのは、現地の方々の優しさでした。私のつたない授業でも真剣に耳を傾け、積極的に質問をしてくれた時はとても嬉しく感じました。授業に関する日本語の質問もあれば、日本の有名な場所や歌のような日本そのものや文化に関する質問もあり、本当に日本に興味を持ってくれているのだと実感しました。また、私がベトナムについて尋ねると学生達は親切に教えてくれました。印象に残ったことは、ホーチミンはコーヒー中心でハノイはお茶中心ということです。このような交流を通じてお互いの国のことを知ることは、私にとって貴重な経験になったと思います。また、交通状態など生活するうえで日本とは異なる面がたくさんあったことに驚きました。



◆目標の達成度

私が立てた目標は、「日本のことを教えることを通じて、日本をより多くの視点で見つめられるようになること」、「様々な人々との交流を通じて、価値観も様々であることを認識すること」でした。前者については、ベトナムという日本から離れた地で2週間過ごしてみて、日本や日本語を見つめ直すことができました。普段は意識しないで使っている日本語も、実際に教えると見えてくる習慣があり、とても新鮮に感じました。また後者については、実際に現地の学生達と話をして、今学んでいることや将来取り組みたいことが人それぞれに異なっていることが分かりました。おそらくそれは、各個人の生活環境や習慣に基づくものであり、日本人とも通じる部分があると思っています。

◆今後の展望

今回のプログラムを通して、コミュニケーションは英語のような言語だけではなく、身振り手振りや書いて伝えることなど、多くの要素から構成されるものであることが分かり、異文化理解に直接触れる良い経験となりました。今後は、今回学んだことを意識した学校生活を送っていきたいです。機会があったら、またベトナムを訪れたいと思います。